

推敲あれこれ

田宮朋子×高野公彦

.....

⑦



すればいいし、Bの意味なら改作2のようにすればいいんですね。

田宮 はい。

高野 日本語という言語は、時々ややこしい言い方が出てきますね。例えば「私の苦手な中国語の先生」という場合、中国語が苦手なのか、先生が苦手なのか、はつきりしない(笑)。

田宮 そういえば、藤島秀憲さんの歌集『オナカシロコ』の中に、「(四度目の夫の入院) 四度目が夫に掛かると読めば楽しも」という歌がありました(笑)。

◆終止形と連体形の使い分け

妖精めくおはぐろとんぼあらはるる人のまばらなスパーの中 (原作)
妖精めくおはぐろとんぼあらはれぬ人のまばらなスパーの中 (改作)

田宮 三句の「あらはるる」はこのままでもいいんですが、歌としてはここで意味が切れるわけですから「あらはれぬ」とした方がいいと思います。

高野 賛成です。「あらはれぬ」の「ぬ」は、完了か打消しか分かりにくい、とい

◆字足らずを直す

高野 こんにちは。宜しくお願ひ致します。自分ならこう直す、という推敲例をいくつか用意していただきました。最初はこれですね。

信濃川は巨大ベルトコンベアで山に降る雪を海に運び捨つ (原作)
信濃川は巨大なベルトコンベアで山々の雪海へと運ぶ (改作)

田宮 句の切れ目は「信濃川は／巨大ベルト／コンベアで」ですから、二句目が字足らずなんです。そこを「巨大なベルト」と直しました。

高野 ついでに下句も引き締まった表現

に直しましたね。

田宮 ええ。動詞の数を減らしました。高野 原作は動詞が三つあったのに、改作は動詞が僅か一つですね。凄い。

友人になかなか会へぬ人があてパンデミックの終りは見えず (原作)
会いたいと思へど会へぬ友があてパンデミックの終りは見えず (改作1)
友人に会へぬと嘆く人があてパンデミックの終りは見えず (改作2)

田宮 原作の意味は、A「私の友人の中に、なかなか会えない人がいて」なのか、それともB「世の中に、なかなか友人と会えない人がいて」なのか、どちらにも解釈できて、迷うんです。

高野 もしAの意味なら改作1のように

う人もいますが、この歌で「あらはれぬ」を打消しと解釈する人はいない。

晴れた日に友と訊ねる薔薇園にとりどりの花咲き競ひをり
(原作)

梅雨晴れの薔薇園に来て友とふたり薔薇の百花のあはひを巡る
(改作)

田宮 これは「咲き競ふ」という表現が通俗的なので変えてみました。

高野 花々は、決して咲き競ったりしない(笑)。これ以外にも「咲き誇る」とか「咲き乱れる」など通俗的な言い方があります。みな良くない。ところで「百花」はヒヤッカと読むわけです。

田宮 ええ、そうです。たくさんの花、という意味で使いました。

高野 うまく収まっていますね。そのほか原作は単に「晴れた日」と言っていますが、それよりも「梅雨晴れ」と言ったほうがイメージが豊かに湧いてくる。総合的に見て、原作は平凡な歌で、改作のほうは味わいがあります。

◆「面影を浮かべる」はダメ

亡くなりし姉の面影浮かべつつ花瓶に活ける買ひ来し花を
(原作)

亡き姉の面影思ひ浮かべつつ花瓶に活ける買ひ来し百合を
(改作1)
亡き姉の面影思ひ浮かべつつ花瓶に活ける白百合の花
(改作2)

高野 ここからは、私の用意した推敲例です。死者を思うことを、「面影を浮かべる」と言っていますが、これはきちんと「面影を思い浮かべる」と言うべきだと思います。

田宮 同感です。改作1で花を具体的に「百合」にしたのもいいですね。

高野 ついでに「買ひ来し」をやめて、「白百合の花」にしたのが改作2です。

田宮 買って来た、というのとはさほど重要な要素ではないわけです。

高野 はい。それよりも何の花か、それが大切な要素だと思います。僕はとりあえず「白百合の花」としましたが、ここは「石楠花の花」でもいいし、「黄菊、白菊」でもいい。花を変えるのと歌のイメージも変わる。そこが面白い。

田宮 歌は創作でもある、と高野さんは考えていらっしゃるんですね。

◆老いの「坂」は通俗的

食ひしる齒は十分に残りみて傘寿の坂をいかに越えむか
(原作)

食ひしる齒は十分に残りみて傘寿の日々をいかに生きむか
(改作)

高野 老齢を表わす比喩として、日本人はよく「坂」を使いますね。

田宮 八十の坂を越える、とか。高野 ええ、その「坂」という比喩が陳腐なんです。しかも「八十の坂をのぼる」と言ったり、反対に「八十の坂をくだる」と言ったりするでしょ。上りか下りか一体どつちなんや、はつきりせい、と大阪の人は怒っている(笑)。

田宮 私も「傘寿の日々をいかに生きむか」のほうがいいと思います。

高野 八十が坂だとすれば、九十は急坂になるのかな(笑)。

田宮 いえ、ご高齢の方は高原の平地で安らいでいるのではないですか。

高野 なるほど。本日はどうもありがとうございました。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)